

最終試験結果の要旨

報告番号	理工研 第 474号	氏名	田邊佳紀
審査委員	主査	仲谷 英夫	
	副査	佐藤 正典	山本 啓司

令和2年2月5日午後2時00分～3時20分に実施された学位論文発表会においては、Power Pointを使用し、約50分の口頭発表が行われた。発表の内容、構成はしっかりしておりよく工夫されていた。質問に対する回答も適切になされた。以下に、主な質問とそれに対する回答をしめす。

Q：タケネズミ科が高地の環境を示す根拠は何か。

A：現生のタケネズミ科はいずれも1000m以上の高地に生息している。

Q：アレチネズミ科の*Abudhabia*の姉妹群にはどのようなものがあり、その分布はどうか。

A：*Miocricetodon*が姉妹群で北アフリカからユーラシアと広域に分布している。*Abudhabia*はトルコのものが最古でその後、東アフリカに侵入した最初のものがナカリ層である。

Q：最も多く産出している*Nakalimys lavocati*の位置づけは、どのようなものか。

A：*Nakalimys lavocati*は各成長段階の標本が産出しており、個体発生を追跡できる分類群であり、今後、同じように多く産出しているチョロラ層の*Nakalimys*と比較し、時代の違いによる進化の過程を明らかにできる可能性がある。

Q：チョロラ層との齧歯類動物相の違いは何か。

A：ナカリ層産の齧歯類動物相には古いタイプの齧歯類のLAD（最終出現年代）と新しいタイプの齧歯類のFAD（最新出現年代）がみられ、現代型齧歯類への交代時期を示すのに対して、チョロラ層の齧歯類動物相では現代型のネズミ科が多く出現しており、現代型齧歯類へ交代した後の動物相である。

Q：チョロラ層との古環境との比較はどうか。

A：ナカリ層とチョロラ層で共通している齧歯類の分類群は*Nakalimys lavocati*と*Paraulacodus johanesi*であり、ともに森林環境を指示している。

以上の結果から、審査員3名は申請者が大学院博士後期課程修了者としての学力と見識を有し、博士（理学）の学位を与えるに足る資格を有するものと認定した。